

【Rally Outline】

2017 全日本ラリー選手権 第6戦

「2017 ARK ラリー洞爺」

開催日程：2017年6月30日(金)～7月1日(日)

開催地：北海道洞爺湖町 近郊

主催：アーク・オートクラブ・オブ・スポーツ

SS 総距離：89.12km (SS 数：15)

総走行距離：499.06km

路面：グラベル(非舗装路)

天候：Day1) 晴れ、Day2) 晴れ



全9戦のカレンダーとなっている2017年の全日本ラリー選手権は、そのうち北海道での2戦がグラベル(非舗装路)路面を戦いの舞台とする。

今季初のグラベルラリーとなった「2017 ARK ラリー洞爺」は完走率が60%を切るサバイバルな生き残り戦となったが、JN4 クラスを戦う山本悠太／藤田めぐみ組は残念ながらタフなステージでリタイヤを喫する結果となった。

■ Driver Profile

山本 悠太 =Yuta Yamamoto=

1990年、愛知県生まれ。両親がダートトライアルを行っていたことからモータースポーツが身近な環境で育ち、18歳で免許を取得して競技に参戦。2013～14年に全日本ダートトライアル選手権でチャンピオンを獲得した後、ラリーへと転向。TGRラリーチャレンジを経て全日本選手権へ参戦する。

■ Co-Driver Profile

藤田 めぐみ =Megumi Fujita=

福岡県生まれ。若手から大ベテランまで、様々なドライバーとコンビを組んで全日本から地区戦までを戦ってきた。

2014年の全日本選手権、JN2クラスでチャンピオンを獲得している。



Japanese Rally Championship 2017 REPORT



【Day1 =30.Jun - 1.Jul.2017=】

第2戦の唐津から中2週のインターバルで開催が続いてきた2017年の全日本ラリー選手権は、第6戦となる「2017 ARKラリー洞爺」が行われた。2011年から北海道を代表する温泉地である洞爺湖町をホストタウンとする本大会は、タフなグラベルラリーとして知られている。山本にとっては初のグラベルを舞台とする全日本選手権への挑戦であり、全日本ダートトライアル選手権のチャンピオンという肩書も有するだけにその戦いぶりは注目を集めた。

週末を通じて好天に恵まれた洞爺・ニセコ地方、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山もその美しい姿を見せる中で6月30日は早朝からSS(スペシャルステージ)の下見などを行うレッキに臨む。今回、土曜日に走行するSSは地区戦も含めてラリーの舞台となったのは初めての林道。洞爺に初参戦となる山本にとってはライバルとイコールの条件となるが、その道は狭くテクニカルな要素も強い難しいステージであった。

レッキや公式車検が終わり、夕方にはサービスパークにほど近い砂防ダムに設けられたSS1「NEW VOLCANO 1 (0.70km)」で戦いが幕を開ける。距離は700mと短いステージだが、北海道内からをはじめ多くのラリーファンが見守る中で山本の戦いもスタート。しかし、ここは2.5秒差の4番手と、ややタイムが伸び悩んでしまった。

一夜明けて7月1日(土)、戦いは林道に主なステージを移す。オープニングのSS2「STREAM 1」は大会最長となる11.24kmのロングステージ、テクニカルでもあるためにタイム差がつきやすい勝負どころのひとつと目されていた。



山本が参戦するJN4クラスは、エンジン排気量1500を超え2000ccまでの車両が属している。数としては山本もステアリングを握るトヨタ・86とスバル・BRZが主流だが、クラス区分基準に駆動方式は関係ないため、4WDやFF(前輪駆動)も含まれることになる。

一般的な車両特性として、グラベル路面はこれら4WD/FF勢が得意とする傾向が強い。金曜日のSS1でも結果に現れていたが、山本/藤田はこれを挽回するべく林道オープニングステージとなるSS2「STREAM 1 (11.24km)」に臨んだ。

スタートから狭いグラベル林道を、果敢に攻略していく山本組。ロングステージの勝負どころだけにタイムをしっかりと刻んで行きたいところだったが、やや気持ちに焦りもあったか2kmほどの地点でタイヤ1本分イン側のラインを取った山本組にタフなステージは容赦なく牙を剥いた。生い茂る草の中にコンクリートの側溝が落ちており、これに乗り上げたためにマシンは足回りに大きなダメージを負ってしまう。さらにタイヤを壊してしまったので、道幅の広いところまで移動してタイヤ交換を行う。既にタイムを出せる状態ではなくなってしまったが、サービスで修復を図り後半セクションに望みをつなぐこととした。

スタートから狭いグラベル林道を、果敢に攻略していく山本組。ロングステージの勝負どころだけにタイムをしっかりと刻んで行きたいところだったが、やや気持ちに焦りもあったか2kmほどの地点でタイヤ1本分イン側のラインを取った山本組にタフなステージは容赦なく牙を剥いた。生い茂る草の中にコンクリートの側溝が落ちており、これに乗り上げたためにマシンは足回りに大きなダメージを負ってしまう。さらにタイヤを壊してしまったので、道幅の広いところまで移動してタイヤ交換を行う。既にタイムを出せる状態ではなくなってしまったが、サービスで修復を図り後半セクションに望みをつなぐこととした。

しかし、SS3「KNOLL 1 (8.04km)」で後続車に追いつかれた際、道を譲るために車を寄せたのだが、深い側溝に吸い込まれるように車が落ちてしまい万事休す。身動きがとれなくなってしまい、無念のデイ離脱となった。

【Day2 =2.Jul.2017=】

不完全燃焼で終わった土曜日から一夜明けた Day2、マシンはメカニックの手によって修復され山本／藤田組はスーパーラリーとして再びステージへと向かった。

土曜日のステージよりは道幅が広いものの、ややテクニカルな要素のある中低速ステージの SS9「SEA TANGLE 1 (6.80km)」は5番手、同様のSS10「PLUM 1 (2.98km)」も6番手と、同クラスの86/BRZ勢に対してもタイムが伸び悩んでしまう。

しかしハイスピードなキャラクターの SS11「LAVENDAR LONG 1 (9.02km)」ではセカンドベストを刻み、続くショートステージのSS12「NEW VOLCANO 3」も連続セカンドベスト。



サービスをはさんだ最終セクション、リピートの林道ステージでもこの傾向は変わらず、SS13「SEA TANGLE 2」は4番手、SS14「PLUM 2」が5番手というリザルトに。そして締めくくりの最終ステージ「LAVENDAR LONG 2」では2番手を3.4秒引き離す待望のステージベストを刻み、ハイスピードステージで速さを見せた一方で、テクニカルステージに対する課題が見せた一戦となった。



■Driver Comment

元々グラベル育ちではありますが、ラリーとダートトライアルは別物と考えていたので、初心に戻るつもりで臨んだ洞爺でした。初のグラベル林道ということで、道の狭さや掘れに対する不安も正直なところありました。そんな中で順位の前にしっかり完走を目指してスタートして車両を破損させたことで、如何に経験が浅く技量不足かを思い知らされました。グラベルではターマック以上に経験値を増やすことが必要で、速さ以前に確実に完走できる術を身につけることが重要だと痛感しています。次の Rally Hokkaido では今回の経験を無駄にしないよう、絶対完走を目標に今後の糧にしていけるように頑張ります。



■Co-Driver Comment

タイヤ1本分インのラインに入ってしまったことで、車両を破損させる結果になってしまいました。デイリタイヤは残念なものでしたが、日曜日には Rally Hokkaido を見据えて足回りのテストを行えたこともあり、収穫もあったと考えています。Rally Hokkaido は走る距離も長く、スピードレンジも高いので、洞爺以上にタフな一戦です。これまでベテラン選手と組んで戦ってきた経験も活かしながら、まずは確実に車を壊さずにフィニッシュまで運べるようにしていこうと思います。